農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

多可町長

市町村名 (市町村コード)	兵庫県多可郡多可町 (283657)	
地域名 (地域内農業集落名)	八千代区 (仕出原集落)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月22日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は平坦でほ場整備された農地が多いが、周囲を山に囲われており獣害被害も多いため耕作農地を囲うようにのり網を設置することが必須となっている。集落内の農地のうち、約8割でうるち米や地域特産の山田錦が栽培されているが、居住区周辺は自己保全農地も増えつつある。耕作者の平均年齢は71才で、アンケートからも9割の農家が現状維持ができると回答しているが、3割の農家で後継者が未定であり、離農した場合の農地の受け入れ態勢についても今後検討・調整していく必要がある。

【基礎データ】

- ・農家軒数 31軒
- ・主な作物 水稻(うるち米、酒造好適米)、ニンニク、一般野菜

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域の特産である山田錦の生産を継続し、栽培技術等を共有することで品質向上、収穫量の増加に努め農業経営所得の安定を図る。個々の農家が現状を維持していく中では、農地の集約化を進めることは非常に困難だが、地権者や耕作者に理解を求め、集積・集約化を念頭に地域の農地利用を検討していく。
そのほか獣害被害が多いことから、定期的に巡回点検し早期修繕をするなど、一体的な被害防止策を継続する。また草刈りや水路等の維持管理についても、非農家も含め集落住民全体で実施していく体制を継続する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	20.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	20.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・農地の集約化を進めることは非常に困難だが、地権者や耕作者に理解を求め、集積・集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・可能な限り農地中間管理機構を活用し、農業を担う者を中心に農地利用を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
・多面的機能支払交付金を活用して、適宜水路等の修繕を実施していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・町・JAなどと連携し地域内外からの多様な経営体を募集するとともに、集落内の若年層にも積極的に働きかけ後継者育成を図る。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の活用方針
・JAみのりの航空防除

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☒ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①⑦多面的機能支払交付金を活用して獣害防止柵や農業用施設の維持管理を図っていく。
- ②堆肥散布を継続し土づくりを継続する。